

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通学）

事業者名： 社会福祉法人 楽友会

研修カリキュラム	
講義・演習の項目	項目の実施内容
1 職務の理解 6時間	1 職務の理解
(1) 多様なサービスの理解	(1) 講義のみ
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	(2) 講義及び演習：様々な介護等の仕事について意見交換を受講者のグループで行い発表する。
2 介護における尊厳の保持・自立支援 9時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援
(1) 人権と尊厳を支える介護	(1) 講義のみ
(2) 自立に向けた介護	(2) 講義及び演習：受講者のグループで自立支援や介護予防について意見交換し自立に向けた介護を検討し発表する。
3 介護の基本 6時間	3 介護の基本
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	(1) 講義のみ
(2) 介護職の職業倫理	(2) 講義のみ
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	(3) 講義及び演習：感染症予防についてグループ内で手洗いや手袋、マスク着用を体験し感想等を発表する。
(4) 介護職の安全	(4) 講義のみ
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携
(1) 介護保険制度	(1) 講義のみ
(2) 障害福祉制度及びその他制度	(2) 講義のみ
(3) 医療との連携とリハビリテーション	(3) 講義及び演習：講義前半部で医療に関する内容を後半部でリハビリに関する内容を実施する。演習は複数の具体的な事例を示し介護と医療との連携について受講者同士がグループで検討し発表する。
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	5 介護におけるコミュニケーション技術
(1) 介護におけるコミュニケーション	(1) 講義及び演習：受講者同士で非言語的コミュニケーションや肯定的、否定的コミュニケーションを実践し、コミュニケーション技術を体験する。
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	(2) 講義及び演習：記録の書き方について事例をもとに受講者同士で利用者と介護者にわかれ介護者として行ったことを記録し、記録内容を討議する。
6 老化の理解 6時間	6 老化の理解
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	(1) 講義及び演習：老化に伴う心身の変化について受講者がグループで意見交換し老化の理解を深め尊厳の保持について検討し発表する。
(2) 高齢者と健康	(2) 講義のみ

7 認知症の理解 6時間	7 認知症の理解
(1) 認知症を取り巻く状況	(1) 講義のみ
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	(2) 講義のみ
(3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	(3) 講義及び演習:認知症のある方と介護職員の具体的なやりとりの事例をもとに受講者がグループで意見交換をし発表することで認知症への対応について理解を深める。
(4) 家族への支援	(4) 講義のみ
8 障害の理解 3時間	8 障害の理解
(1) 障害の基礎的理解	(1) 講義のみ
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	(2) 講義のみ
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	(3) 講義及び演習:障害を持つ家族を家族介護する事例をもとに、家族の心理や介護者としてのかかわり方などをグループで検討し発表する。
9 ところとからだのしくみと生活支援技術 75時間	9 ところとからだのしくみと生活支援技術
ア 基本知識の学習 10~13時間	ア 基本知識の学習
(1) 介護の基本的な考え方	(1) 講義のみ
(2) 介護に関するところのしくみの基礎的理解	(2) 講義のみ
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	(3) 講義のみ
イ 生活支援技術の講義・演習 50~55時間	イ 生活支援技術の講義・演習
(4) 生活と家事	(4) 講義のみ
(5) 快適な居住環境整備と介護	(5) 講義のみ
(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(6) 講義及び実技演習:整容の方法を理解するため、受講者が障害に応じた衣服着脱の体験、受講者同士での着脱介助の演習を行う。
(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(7) 講義及び実技演習:移動と移乗の方法を理解するため車いすやベッドを使用して介助の演習を行う。
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(8) 講義及び実技演習:高齢者の栄養や食事について学び、食事介助の方法の理解を深めるため、自助具などを用いた食事摂取方法や介助方法の実技演習を行う。
(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(9) 講義及び実技演習:清潔保持の介助方法について、全身清拭や部分浴等の実技演習を行う。
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(10) 講義及び実技演習:排泄方法等の理解のため、福祉用具の活用方法やおむつ介助方法などの実技演習を行う。
(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(11) 講義及び実技演習:ベッドメイキングや体位変換の方法等について実技演習を行う。
(12) 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	(12) 講義及び実技演習:看取り介護の事例を用いて、介護職として利用者や家族への支援などについて受講者がグループで意見交換し発表する。
ウ 生活支援技術演習 10~12時間	ウ 生活支援技術演習
(13) 介護過程の基礎的理解	(13) 講義及び演習:事例を用いてアセスメント、個別介護計画の作成、評価、再アセスメントの過程を実技演習する。
(14) 総合生活支援技術演習	(14) 講義及び演習:事例を用いて整容、食事、移乗移動、入浴の介護方法について計画作成の実技演習を行い、介護方法やその理由等をグループ内で発表し討議する。

別記第 1 号の 2 様式

10 振り返り	4 時間	10 振り返り
(1) 振り返り		(1) 講義及び演習: 研修を通して学んだことを振り返り、グループ内で発表し討議する。
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修		(2) 講義のみ
		計 (1 3 0 時間)